



<特集：研究生生活を振り返って> 空へ

著者	湊 秋作
雑誌名	教育学論究
号	12
ページ	x-xi
発行年	2020-12-15
URL	http://hdl.handle.net/10236/00029167

氏 名 湊 秋作 (みなと しゅうさく)

職 名 教育学部 教授

学 歴 兵庫教育大学大学院学校教育研究科修了
京都大学大学院理学研究科より博士号 (理学博士) 取得
学位論文「ニホンヤマネの繁殖」

学 位 教育学修士、理学博士



主な職歴 1976年 和歌山県本宮町立皆地小学校教諭から教育現場
1999年 キープ協会環境教育事業部やまねミュージアム館長
2007年 キープ協会環境教育事業部本部長・やまねミュージアム館長
2010年 関西学院大学教育学部教授

そ の 他 ニホンヤマネ保護研究グループ会長 (現在)
(一社) アニマルパスウェイと野生生物の会会長 (現在)
(一社) ヤマネ・いきもの研究所 代表理事 (現在)
山梨県文化財保護審議会委員 動物担当 (現在)
山梨県希少野生動植物保護専門員 哺乳類担当 (現在)
関西学院大学 SDGs・生物多様性研究センター長 (現在)

主な著書・論文

1992年 ヤマネはねぼすけ (単著) 福音館書店.
2000年 森のスケーターヤマネ (単著) 文研出版. 課題図書に選定される. 児童福祉文化賞推薦作品.
2004年 田んぼの楽校 (単著) 山と溪谷社.
2005年 森のスケーターヤマネ (単著) 教育出版. 小学3年の国語教科書の説明文として掲載.
2018年 ニホンヤマネ野生動物の保全と環境教育 (単著) 東京大学出版社.
1995年 Arboreal activity of *Glirulus japonicus* (Rodentia: Myoxidae) confirmed by use of bryophytes as nest materials (共著) Acta Theriologica 40:309-313.
2017年 Body temperature and microhabitat use in the hibernating Japanese dormouse (*Glirulus japonicus*) (共著) Mammalia 81:23-32.
2019年 田んぼのようちえん = 聖ヨハネ保育園の実践 = (共著) 子どもと自然 14:40-56.
2020年 Evolutionary and Anthropogenic Factors Affecting the Mitochondrial *D-loop* Genetic Diversity of *Apodemus* and *Myodes* Rodents on the Northern Slope of Mt. Fuji (共著) Mammal Study 45:315-325.

主な受賞

2000年 IT教育で情報処理教育研修助成財団より「文部大臣賞」を受賞
2007年 ヤマネ研究で環境省より「みどりの日自然環境功労者環境大臣表彰」を受賞
2008年 アニマルパスウェイの実績で日本土木学会より「環境賞」を受賞
2010年 いきものにぎわい企業コンテストでアニマルパスウェイで「環境大臣賞」を受賞
2012年 一般社団法人日本経済団体連合会と経団連自然保護協議会より「感謝状」をいただく
2013年 日本経済新聞社からアニマルパスウェイで「日経地球環境技術賞」を受賞
2015年 環境省よりアニマルパスウェイで「グッドライフアワード2015環境大臣賞優秀賞受賞」
2015年 日本自然保護協会よりアニマルパスウェイの開発と普及で「日本自然保護大賞で入選」
2015年 フジサンケイグループより秋篠宮殿下ご夫妻臨席のもと「地球環境大賞審査員特別賞受賞」
2015年 山梨県アニマルパスウェイで北杜市より「奨励賞」を受賞
2016年 リヨンで開催された IENE (Infra EcoNet Europe) の国際学会でベストポスター賞を受賞

空へ

湊 秋 作

私とヤマネ研究との出会いは、大学2年生の都留文科大学の学長室から始まった。ヤマネ研究を始めた私には、ヤマネ研究の権威である赴任したばかりの下泉重吉学長に指導をお願いに学長室のドアをたたいたのである。アポもとらずにやってきた私を受け入れて下さった下泉先生は、日本生物教育学会の創始者で1970年には自然保護教育の要望書を国に提出した方でもあった。それから、今に至る間、ヤマネ研究のビジョンは、ヤマネを総合的に研究し、その成果で環境保全・環境教育で社会に貢献することであった。たくさんの仲間と多くの支援者たちのおかげで、ヤマネという小さく、ねぼすけで、日本列島最古参の動物の不思議を本のページをめくるように1枚、1枚、楽しみながら開いてきた。今、「環境DNA」のページをめくったところで、ヤマネの糞から食べた植物・動物たちの遺伝子を探り、ヤマネを核とした生態系を探っている。

小学校教師時代からの主な教育テーマは3つある。1つめは、自然保護教育を源流にもつ環境教育の発展と普及である。園児・児童・大学生・企業人・市民などを対象とし進めてきた。園児とは田んぼのようちえんの実践を、児童とは神社・校庭・田んぼ水族館で、大学生とはキャンパスや田んぼで、企業人とは、新宿御苑や八ヶ岳で、市民には森でのやまね学校を通して実践展開してきた。今、学生のみんなやSDGs・生物多様性研究センターの仲間と共にSDGsかるたを普及させている。それぞれのみんなの笑顔や成長が、起動力となってきた。2つめは、五感教育の開発と教育的役割の研究である。3つめは、いきものの教育的役割の研究である。この2つの大きな課題に取り組んでいる。

教師には、理論と実践が両輪なので、大学教員としても、出前授業を大事にしてきた。隠岐の島の中条小学校と尾鷲市の尾鷲小学校との実践は5年めとなり、児童の感性の豊かさと伸びようとする心、そして、科学を楽しむ姿勢にふれることができている。子どもって「すごい！ 素敵！」と感じさせてもらってきた。

2020年の春学期のリモートでの授業は、学生たちの可能性のすばらしさを感じた時でもあった。特に

「いきものをどう教えるか」をテーマとするいきもの教育法の創案には、院生・学生たちの感受性と視野と可能性の豊かさを感じてきた。授業を終えた今、有志の院生・学部生・卒業生・研究者と「いきもの教育法ワークショップ」を始めている。

やまねミュージアムを辞し、小さな（一社）ヤマネ・いきもの研究所を同志と立ち上げた私は、さらにヤマネといきものたちを研究し、保全し、教育する活動をし、未来にちよっぴり貢献できればと願っている。これまで支えて下さったたくさんの関西学院大学のみなさんに感謝しながら。ありがとうございます。

